

入札説明書

件名：新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託

令和8年4月

新潟市総務部情報システム課

この入札説明書は、政府調達に関する協定（平成7年条約第23号）、地方自治法（昭和22年法律第67号）、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号。以下「施行令」という。）、地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（平成7年政令第372号）、新潟市契約規則（昭和59年新潟市規則第24号。以下「規則」という。）、新潟市物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める規則（平成19年新潟市規則第88号。以下「特例規則」という。）、本調達に係る入札公告（以下「入札公告」という。）のほか、本市が発注する調達契約に関し、一般競争に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）が熟知し、かつ、遵守しなければならない一般的事項を明らかにするものである。

1 競争入札に付する事項

(1) 件名及び数量

新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託 一式

(2) 履行の内容等

仕様書のとおり

(3) 履行場所

新潟市総務部情報システム課の指定する場所

(4) 履行期間

令和8年12月1日から令和13年11月30日まで（60か月間）

なお、本調達は地方自治法第234条の3の規定による長期継続契約とする。

(5) 入札方法

契約初年度に要する4か月分（月額×4か月）の金額で入札に付する。

なお、落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てるものとする。）をもって落札金額とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2 入札に参加する者に必要な資格

(1) 本市の入札参加資格者名簿（業務委託）に登載されている者であること。

(2) 施行令第167条の4第1項の規定に該当しない者であること。

(3) 新潟市競争入札参加資格者指名停止等措置要領の規定に基づく指名停止措置を受けていない者であること。

(4) 「プライバシーマークの認定」又は「情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の認定」を受けている者が保守を担当すること。

(5) 保守対象機器に関し、本市の求めに応じて、迅速な保守作業の体制が整備されていることを証明できる者であること。

3 問い合わせ先

新潟市総務部情報システム課 担当：宮澤
951-8550（郵便番号）
新潟市中央区学校町通1番町602-1
電 話 025-226-2477（直通）
電子メール info_sys@city.niigata.lg.jp

4 競争入札参加申請等

(1) 入札参加者は、一般競争入札参加申請書（別記様式第1号）に供給機器に関する体制調書（別記様式第2号）及び機能証明書（機器等明細一覧）（別記様式第3号）を添えて、令和8年4月28日（火）午後5時までに第3項の場所に持参又は郵送（書留郵便に限る。）にて提出すること。

なお、持参する場合の受付時間は、市役所開庁日の午前9時から午後5時までとする。
また、提出された書類に関し説明を求められた場合は、随時それに応じること。

(2) 競争入札参加申請後に入札参加を辞退するときは、その旨を書面で届け出ること。

(3) 競争入札参加資格確認結果については、本項第1号により提出された書類に基づく審査の上入札参加資格の有無を決定し、令和8年5月11日（月）までに一般競争入札参加資格確認結果通知書を電子メールで送付、又は発送する。

5 入札保証金

規則第10条第2号により、入札保証金は免除する。

6 入札及び開札

(1) 入札及び開札の日時、場所

令和8年5月20日（水） 15時30分

新潟市役所本館2階入札室

新潟市中央区学校町通1番町602-1

(2) 郵送による入札書等の提出期間及び提出先

令和8年5月12日（火）から令和8年5月18日（月）午後5時までに第3項の場所へ提出すること（書留郵便に限る）。

(3) 入札参加者又はその代理人は、別添の仕様書、契約書（案）及び規則を熟知の上、入札をしなければならない。

また、仕様書等について疑義がある場合は、質疑書（別記様式第4号）を令和8年4月8日（水）から同年4月22日（水）午後5時までに第3項の場所へ電子メールにより提出すること。

(4) 入札参加者又はその代理人は、本調達に係る入札について他の入札参加者の代理人となることができない。

(5) 入札室には、入札参加者又はその代理人以外の者は入室することができない。た

だし、入札担当職員が特にやむを得ない事情があると認めた場合は、付添人を認めることがある。

(6) 入札参加者又はその代理人は、入札開始時刻後においては入札室に入室することができない。

(7) 入札参加者又はその代理人は、入札室に入室しようとするときは、入札担当職員に第4項第3号の規定により入札参加資格有と通知された一般競争入札参加資格確認結果通知書（写し可）、並びに代理人をして入札させる場合においては、入札権限に関する委任状（別記様式第6号）を提出すること。

(8) 入札参加者又はその代理人は、入札担当職員が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、入札室を退室することはできない。

(9) 入札参加者又はその代理人は、入札の際次の各号に掲げる事項を記載した入札書（別記様式第5号）を提出しなければならない。

ア 入札参加者の住所、会社（商店）名、氏名及びその押印（外国人にあっては、署名をもって押印に代えることができる。以下同じ。）

ただし、代理人が入札する場合は、入札参加者の住所、会社（商店）名、氏名、受任者名（代理人の氏名）及びその押印

イ 入札金額

ウ 履行場所

エ 品名（件名）及び数量

オ 品質・規格

詳細に記載すること。又は「仕様書のとおり」という記載でも構わない。

(10) 入札に係る文書に使用する言語は、日本語に限る。また、入札金額は、日本国通貨による表示とすること。

(11) 郵送により入札する場合は、入札書は封書とし、その封皮に入札の日付、品名、入札参加者の氏名（法人にあっては、その名称又は商号）を記載すること。

また、入札書を入れた封筒を二重封筒とし、外封筒の表書きとして「入札書在中」と朱書きの上、本項第7号で示す一般競争入札参加資格確認結果通知書の写しを同封し、書留郵便で郵送すること。

加入電信、電報、電話、電子メール等その他の方法による入札は認めない。

(12) 入札書等及び委任状は、ペン又はボールペンを使用すること。鉛筆及び消せるボールペンの使用は認めない。

(13) 入札参加者又はその代理人は、入札書等の記載事項を訂正する場合は、当該訂正部分について押印すること。ただし、入札金額の訂正は認めない。

(14) 入札参加者又はその代理人は、提出した入札書の引換え、変更、取消しをすることができない。

(15) 不正の入札が行われるおそれがあると認めるとき、又は災害その他やむを得ない理由が生じたときは、入札を中止し、又は入札期日を延期することがある。

(16) 談合情報等により、公正な入札が行われないおそれがあると認められるときは、

入札を中止し、又は延期し若しくは抽選により入札者を決定するなどの場合がある。

(17) 開札は、入札参加者又はその代理人が出席して行う。この場合において、入札参加者又はその代理人が立ち会わないときは、当該入札執行事務に関係のない職員を立ち会わせてこれを行う。

(18) 開札した場合において、有効とする入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、本項第1号の入札及び開札の日時以降に再度の入札を行う。再度入札の方法については、別途指示する。また、第7項各号に該当する無効入札をした者は、再度入札に加わることができない。

(19) 再度入札は1回とし、落札者のない場合は施行令第167条の2第1項第8号の規定により、再度入札において有効な入札を行った者のうち、最低金額を記載した入札参加者と随意契約の交渉を行うことがある。

7 入札の無効

次の各号に該当する入札は、これを無効とする。

(1) 入札公告に示した競争に参加する者に必要な資格のない者がした入札、又は代理権のない者がした入札

(2) 入札書等の記載事項中、入札金額、又は入札者の氏名、その他主要な事項が識別しがたい入札

(3) 入札者が2以上の入札（本人及びその代理人がした入札を合わせたものを含む。）をした場合におけるその者の全部の入札

(4) 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する不正の行為によった入札

(5) 公正さを疑うに足りる相当な理由があると認められる入札

(6) 再度入札において初回の最低入札価格以上の価格で行った入札

(7) 入札公告等において示した入札書の提出期限までに到着しなかった入札

(8) その他入札に関する条件に違反した入札

(9) 入札書記載の金額を加除訂正した入札

(10) 本項第4号又は第5号に該当する入札は、その入札の全部を無効とすることがある。

8 落札者の決定

(1) 有効な入札書等を提示した者であって、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって申込みをした者を契約の相手方とする。

(2) 落札となるべき同価の入札をした者が複数あるときは、直ちに、当該入札者にくじを引かせて落札者を決定する。この場合において、当該入札者のうち出席しない者又はくじを引かない者があるときは、当該入札執行事務に関係のない職員にこれに代わってくじを引かせ、落札を決定する。

(3) 落札者を決定した場合において、落札者とされなかった者から請求があったとき

は、落札者を決定したこと、落札者の氏名及び住所、落札金額並びに当該請求者が落札者とされなかった理由、並びに当該請求を行った者の入札が無効とされた場合においては無効とされた理由を、速やかに当該請求を行った者に書面により通知するものとする。

9 契約の停止等

本調達に関し、政府調達に関する苦情処理の手續に基づく苦情申立があったときは、契約を停止し、又は解除することがある。

10 契約保証金

金額は、規則第33条の規定により契約金額を1年間当たりの額に換算した額の100分の10以上の額とし、現金、銀行が振り出し、若しくは支払い保証した小切手又は無記名の国債若しくは地方債をもって充てることとする。ただし、規則第34条の各号のいずれかに該当する場合は、契約保証金を免除する。

11 契約書の作成

(1) 契約書を作成する場合には、落札者は、交付された契約書に記名押印し、落札決定の日の翌日から起算して10日以内の間に当該契約を締結しなければならない。ただし、特別の事情があると認めるときは、契約の締結を延期することができる。

(2) 契約書及び契約に係る文書に使用する言語並びに通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

12 支払いの条件

本契約に係る代金は、本市の検査に合格した後、適正な請求書に基づいて支払う。

13 契約条項

別添「契約書（案）」による。

14 競争入札参加資格審査申請

第4項第1号で規定する一般競争入札参加申請時に、第2項第1号で示す名簿に登載されておらず、本入札に参加を希望する者は、「政府調達（WTO）契約に係る業務委託入札参加資格審査申請書」を令和8年4月22日（水）までに次の申請先へ提出しなければならない。申請書類は、新潟市財務部契約課ホームページから取得することができるほか、新潟市財務部契約課で交付する。

この場合、入札参加者は、本申請書類の一部である「政府調達（WTO）契約に係る業務委託入札参加資格審査申請受付確認票」の写しを第4項第1号で規定する提出書類に含め、一般競争入札参加申請を行うこととする。

申請（問い合わせ）先 郵便番号 951-8550
新潟市中央区学校町通1番町602番地1
新潟市財務部契約課物品契約係
電話：025-226-2213（直通）

https://www.city.niigata.lg.jp/business/keiyaku/keiyaku_top

15 その他

- (1) 入札書の到着確認、入札参加者数及び入札参加者名の問い合わせには一切応じない。
- (2) 本調達は、地方自治法第234条の3の規定による長期継続契約であるため、本契約締結日の属する年度の翌年度以降において、歳入歳出予算の当該金額について減額又は削除があった場合は、本契約を変更又は解除することがある。

一般競争入札参加申請書

年 月 日

(あて先) 新潟市長

(申請者) 所在地
称号又は名称
代表者氏名

(押印不要)

下記の案件に係る一般競争入札に参加したいので、入札説明書に記載された入札に参加する者に必要な資格を満たすための提出書類を添えて申請します。

記

項目	摘要
入札公告年月日	令和8年4月8日
公告番号	新潟市契約公告第21号
調達物品名	新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託
競争入札参加資格者名簿への登録	<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 申請中 業者コード:
添付書類	・供給機器に関する保守等の体制調書(様式第2号) ・機能証明書(機器等明細一覧)(様式第3号) ・その他()
連絡先	担当者
	電話
	F A X
	e-mail

供給機器に関する体制調書

商号又は名称

1 保守作業の体制について、該当する番号に○印で囲むこと。

- (1)新潟市総務部情報システム課から故障等の連絡があった場合、迅速に対応をとることが可能です。
- (2)新潟市総務部情報システム課から故障等の連絡があった場合、迅速に対応をとることができません。

※「迅速に対応」とは、新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書に記載の対応をすることをいう。

2 保守作業の体制について

項目	体制	備考
技術支援業者名称(※)		法人名を記入
所在地(※)		所在地を記入
当社との関係(※)		直営・協力
技術スタッフ数	人	スタッフ数を記入
常時対応可能なスタッフ数	人	スタッフ数を記入
作業着手までの所用時間	時間	時間を記入
緊急時の技術員派遣体制		有・無

※保守業務を第三者に委託する場合は、委託先の情報について記載すること。保守を第三者に委託しない場合は、「直営で実施」と記載すること。

3 対応スタッフの取得資格等について

資格等の名称	取得人数
	人
	人
	人
	人
	人

※「取得資格等」とは、マイクロソフト認定技術資格試験MC P、CompTIA PDI+資格のほか、保守対象のハードウェア及びソフトウェアメーカー認定資格や経済産業省 情報処理技術者資格等をいう。(入札参加には、1名以上の資格取得者が必要)

4 プライバシーマークの認定又は情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度の認証取得について、該当する番号を○印で囲むこと。

(1) プライバシーマークの認定又は情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度の認証取得をしています。

認証登録番号：

(2) プライバシーマークの認定又は情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）適合性評価制度の認証取得をしていません。

5 過去2年間における本業務と同様な契約実績について、該当する番号に○印で囲むこと。
なお、(1)の場合は、契約実績を記入すること。

(1) 本業務と同様な契約実績が複数回あります。

契約期間	契約締結先	契約内容 (機器名称等)	契約金額 (月額税込)

※「一般競争入札参加申請書」の提出日から起算して2年以内に履行が完了した契約の記載を原則とするが、履行中の契約についての記載も認める。いずれの場合も、本市が契約締結先に履行状況について確認する場合がある。

(2) 本業務と同様な契約実績がありません。

年 月 日

所在地
称号又は名称
代表者氏名

(押印不要)

質 疑 書

年 月 日

住 所

商号又は名称

代表者氏名

(押印不要)

(担当者

)

(電話番号

)

(メールアドレス

)

1 公告番号 新潟市契約公告第21号

2 件 名 新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託

質 疑 事 項

注1 この質疑書は、仕様書等について質問がある場合（入札に必要な事項に限る）にのみ提出してください。

注2 提出期限は令和8年4月22日(水)午後5時です。提出期限を過ぎた場合は受理しません。

注3 回答は、提出期限後6日以内に新潟市財務部契約課ホームページ内の一般競争入札公告一覧に掲載します。

入札（見積）書

年 月 日

新潟市長様

住 所

氏 名

印

受任者

印

新潟市契約規則及びこれに基づく入札（見積）条件を承認のうえ

入札（見積）いたします。

金 額	百	千	円		
履 行 場 所	新潟市総務部情報システム課の指定する場所				
品 名	品 質・規 格	数 量	単 価	金 額	
新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託	仕様書のとおり	4か月			
			(内保守・点検料)	(内保守・点検料)	

(注) 入札（見積）額は、消費税及び地方消費税を含まないものとする。

入札（見積）書

新潟市入札参加資格申請で登録している所在地、名称及び代表者を記載し、登録している「使用印」を押印してください。
(委任状を提出する場合は、社印・代表者印は省略できます)

〇〇年〇〇月〇〇日

新潟市長様

住所 〇〇県〇〇市〇〇区〇〇町
〇丁目〇〇番〇〇号

氏名 △△株式会社
代表取締役 〇〇 〇〇 (印)

・代表者本人が入札する場合は記入不要です。
・委任する場合は、受任者名を記入し、委任状と同じ印を押印してください。

受任者 〇〇 〇〇 (印)

新潟市契約規則及びこれに基づく入札（見積）条件を承認のうえ

入札（見積）いたします。

4カ月分の金額（当該年度分）を記入

金額	¥	百	〇	〇	千	〇	〇	円	〇
履行場所	新潟市総務部情報システム課の指定する場所								
品名	品質・規格	数量	単価	金額					
新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託	仕様書のとおり	4ヶ月	〇〇〇〇円	〇〇〇〇円					
				(内保守・点検料)	(内保守・点検料)				
				〇〇〇〇円	〇〇〇〇円				

単価は（月額税抜）を記入してください。

(注) 入札（見積）額は、消費税及び地方消費税を含まない

単価、金額ともにそれぞれに含まれる保守・点検料を記載します。

委 任 状

年 月 日

新 潟 市 長 様

私は次の者をもって、下記の入札に関する権限の一切を委任いたします。

委 任 者 住 所
氏 名 印

受 任 者 氏 名 印

記

件 名 新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託

委任状

年 月 日

新潟市長様

新潟市入札参加資格申請で登録している所在地、名称及び代表者を記載し、登録している「使用印」を押印してください。

私は次の者をもって、下記の入札に関する権限の一切を委任いたします。

委任者 住所 ○○県○○市○○区○○町
○丁目○○番○○号

氏名 △△株式会社
代表取締役 ○○ ○○



受任者 氏名 ○○ ○○



記

件名 新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

令和8年4月
新潟市総務部情報システム課

目次

1.	業務の名称.....	3
2.	納入場所.....	3
3.	賃貸借期間.....	3
4.	契約形態及び支払い.....	3
5.	業務の目的・概要.....	3
6.	業務の内容.....	4
7.	調達機器等の仕様.....	5
8.	保守業務の仕様.....	17
9.	成果物等.....	20
10.	その他特記事項.....	21

新潟市次期共通基盤システム 機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

本書は、新潟市次期共通基盤システム（以下「本基盤」という。）の構築にあたり、必要なハードウェア、ソフトウェア等（以下「機器等」という。）の調達、賃貸借、保守等に関して、新潟市（以下「本市」という。）と受託者との契約履行に必要な事項を定めるものである。

1. 業務の名称

「新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務」

2. 納入場所

新潟市総務部情報システム課が指定する場所

3. 賃貸借期間

令和 8 年 12 月 1 日から令和 13 年 11 月 30 日まで（60 か月）

4. 契約形態及び支払い

(1) 契約形態

月額賃貸借金額を定めて、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 234 条の 3 の規定による長期継続契約とする。

(2) 支払方法

本市は、本書で定める成果物の納入、報告書の提出、履行届出書の提出により、受託者へ「新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託契約書」（以下、「契約書」という）で定めた対価を月額で支払う。受託者は、月額払いの請求書について、賃貸借と保守の内訳がわかるようにすること。詳細は、契約後、本市担当者へ確認すること。

5. 業務の目的・概要

本業務は、本基盤に必要な機器等について、その物品本体、保守、及び付帯作業などを調達するものである。今回調達する機器等は、本業務において、機器の搬入、設定作業、付帯作業などの事前作業、保守を実施する。

なお、本業務において機器等が納入され次第、本基盤の構築業務を実施する。構築業務に係る仕様は、「新潟市次期共通基盤システム構築業務委託仕様書」を参照。（構築業務を実施する本基盤構築業務受託者は、株式会社NS・コンピュータサービス）

6. 業務の内容

本業務の受託者は、下記の業務について、本市と協議・合意の上、実施すること。

(1) 機器等の賃貸借

「本基盤」を構築するための機器等を調達し、本書で定める期間、本市へ賃貸借すること。

- 機器等の設置に伴って必要となる物品（ケーブルや接続部品等）については、本書の記載の有無に関わらず提供すること。

(2) 機器等の納入

新潟市中央区内の機器等を設置する場所（以下「機器等設置場所」という。）へ納入し、納入したことを本市へ証明すること。

- 契約締結後、納入に係る日程等の詳細について、本市と事前に協議・調整すること。
- 納入にかかる費用は、受託者が負担すること。

(3) 設定作業

納入した「機器等」について、ソフトウェアのインストール等の機器設定作業を実施し、機器が認識されるか等の動作確認を令和 8 年 11 月 30 日までにを行うこと。

なお、設定内容は事前に本市及び本基盤構築業務受託者に提示のうえ、承認を得ること。

- 搬入作業等にかかる費用は、受託者が負担すること。
- 搬入時に現地にて機器の初期動作確認を実施し、機器の起動や動作に問題がないことを確認すること。
- 設定作業の遅延等に起因する本基盤構築業務受託者作業の工程遅延、発生する費用負担などの危険負担は受託者が負うものとする。
- 機器搬入時には、電源工事は既に済んでおり、機器設置及び動作に係る電源工事は本業務には含まないものとする。

(4) 付帯作業

次の付帯作業を実施すること。本作業の実施にあたり、実施事項を作業計画書で明確にすること。

ア. 付帯作業計画の立案

本書で記載する一連の付帯作業について、スケジュールや作業条件、作業工程等を含めた作業計画を立案し、「機器等」の納入予定日までに、作業計画書として本市の承認を得ること。

イ. 仮想マシンの単体テスト

本基盤で規定する仮想マシンの単体テスト（仮想マシン・ゲストOS の設定、Windows Update の自動更新の無効化、ネットワークアダプタ・DNS サフィックス

**新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書**

ス・ファイアウォール・時刻同期・システムプロパティの設定)の実施補助を行うこと。

ウ. 仮想マシンのシステム基盤テスト

本基盤で規定する仮想マシンのバックアップ等に関するテストの実施補助を行うこと。

エ. 付帯作業報告

本業務で実施した一連の付帯作業について、作業結果を報告し、作業報告書として本市の承認を得ること。

(5) 保守・交換部品の確保

受託者は、「機器等」の故障に備え、後述の復旧時間に関する要件を満たせるよう、交換部品等を保守拠点に確保するとともに、本書に示す保守業務を実施すること。

なお、対象機器の範囲や保守ルール等については、本市と受託者との協議の上、決定する。

(6) 機器等の引き取り

「機器等」の賃貸借終了後、データ及び設定情報の消去、ラックからの機器等の取り外しを実施した上で、「機器等設置場所」の「機器等」を引き取ること。

なお、引き取り完了後 10 日（新潟市の休日を含める）を定める条例（平成元年新潟市条例第35号）第1条第1項各号に挙げる日を除く。以降、日数に関する記載は同様とする。）以内に、「機器等」のデータ及び設定情報を消去したことを証明する「データ及び設定情報消去証明書」を作成し、押印のうえ本市に提出すること。書式については、受託者が定める様式で構わないが、事前に本市へ確認を得ること。

また、引き取り等にかかる費用は、受託者が負担すること。

7. 調達機器等の仕様

(1) 調達対象機器

調達機器は、以下のとおりとする。

受託者は、納入する機器の名称、型番、販売価格、提供価格、保守費用、リース料率を記した「納入予定機器等一覧表」を作成し、契約締結後10日以内に本市へ提出すること。

なお、納入する機器の変更（メーカーの機種変更や仕様変更等のためその機器を納入することが不可能な場合）やその他の問題が発生した場合は、遅滞なく本市へ報告し、協議すること。

【表 1 調達機器等一覧】

項番	機器名称	数量	備考
ア	業務用仮想化基盤サーバ	6台	表3

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

項番	機器名称	数量	備考
イ	統合運用管理サーバ	2台	表4
ウ	バックアップサーバ	2台	表5
エ	バックアップテープ装置	2台	表6
オ	L2スイッチ（業務用）	2台	表7
カ	L2スイッチ（運用管理用）	1台	表8
キ	ファイアウォール兼負荷分散装置	2台	表9
ク	L2スイッチ（庁内LAN接続用）	2台	表10
ケ	ラック関連機器	一式	表11
コ	ソフトウェア	一式	表12

(2) 前提条件

調達した機器は、「機器等設置場所」に設置している以下の表 2に記載のシステムラックに搭載する。

【表 2 システムラック基本条件】

メーカー名・型番	外形寸法			パネル取付 有効スペース
	単位：mm			
日東工業株式会社 FSS100-722EK	W 700	H 2,200	D 1,017	EIA（タテ） 46U

(3) 調達機器等仕様

ア 業務用仮想化基盤サーバ（6台）

【表 3 業務用仮想化基盤サーバ】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
CPU（動作周波数/コア数/3次キャッシュ）	Intel Xeon プロセッサ 6530P（2.30GHz/32コア/144MB）又は同等以上のCPUを2基以上搭載すること。	
メインメモリ	512GB 以上であること。	
内蔵HDD	回転数7,200rpm以上、接続インタフェースSAS（12Gb/s）又は同等以上の性能を有し、記憶容量56TB以上を確保できること。なお、HDDは活性交換が行えること。	
内蔵SSD	接続インタフェースSAS（12Gb/s）又は同等以上の性能を有し、記憶容量23TB以上を確保できること。また、SSDは活性交換が行えること。	
LAN ポート	10GBASE-T対応のLAN ポート（RJ-45）を4ポート以上有していること。	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
電源装置	AC200V 50/60Hzで、冗長化により2個以上搭載していること。また、活性交換が行えること。	
ソフトウェア		
仮想化ソフトウェア	指定 Nutanix AOS 7.0以上 ※ハードウェアはNutanix AOSの動作保証するものを選定すること。	Nutanix社製
その他		
USBポート	外部接続可能なUSB3.0以上に対応したインタフェースを2ポート以上搭載していること。	
管理機能	ネットワーク（LAN）を介して、コンソールの表示・操作、電源の操作が行えること。	
KVM	「ケ ラック関連機器」に記載の「KVM スイッチ」と接続して本体の操作が行えること。	

イ 統合運用管理サーバ（2台）

【表 4 統合運用管理サーバ】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
CPU（動作周波数/コア数/3次キャッシュ）	Intel Xeon プロセッサ Gold 5418Y (2.0GHz/24 コア/45MB) 又は同等以上のCPUを2基以上搭載すること。	
メインメモリ	64GB 以上であること。	
内蔵SSD	接続インタフェースSATA (6Gb/s) 又は同等以上の性能を有し、RAID6で構成し、記憶容量3.84TB以上を確保できること。また、SSDは活性交換が行えること。	
LAN ポート	・1000BASE-T 対応のLAN ポート (RJ-45) を2ポート以上有していること。 ・10GBase-T対応のLANポート (RJ-45) を2ポート以上有していること。	
電源装置	AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個以上搭載していること。また、活性交換が行えること。	
ソフトウェア		
OS	指定 Microsoft Windows Server 2025 Standard Edition 64bit版	Microsoft 社製
その他		
USBポート	外部接続可能なUSB3.0以上に対応したインタフェースを2ポート以上搭載していること。	
管理機能	ネットワーク（LAN）を介して、コンソールの表示・操作、電源の操作が行えること。	
KVM	「ケ ラック関連機器」に記載の「KVMスイッチ」と接続して本体の操作が行えること。	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

ウ バックアップサーバ (2台)

【表 5 バックアップサーバ】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
CPU (動作周波数/コア数/3次キャッシュ)	ADM EPYCプロセッサ 9124 (3.0GHz/16コア/64MB) 又は同等以上のCPUを2基以上搭載すること。	
メインメモリ	128GB 以上であること。	
内蔵HDD	回転数7,200rpm以上、接続インターフェース SAS (12Gb/s) 又は同等以上の性能を有し、12本以上のディスクでRAID6を構成し、記憶容量160TB以上を確保できること。なお、HDDは活性交換が行えること。	
ホストバスアダプター	「エ バックアップテープ装置」と接続可能な32Gbps以上のファイバチャネルポートを、4ポート以上有していること。	
LAN ポート	<ul style="list-style-type: none"> 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応のLAN ポートを2ポート以上有していること。 10GBASE対応のLAN ポートを2ポート以上有していること。 	
電源装置	AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個以上搭載していること。また、活性交換が行えること。	
ソフトウェア		
OS	指定 Microsoft Windows Server 2025 Standard Edition 64bit版	Microsoft社製
その他		
USBポート	外部接続可能なUSB3.0以上に対応したインターフェースを2ポート以上搭載していること。	
管理機能	ネットワーク (LAN) を介して、コンソールの表示・操作、電源の操作が行えること。	
KVM	「ケ ラック関連機器」に記載の「KVMスイッチ」と接続して本体の操作が行えること。	

エ バックアップテープ装置 (2台)

【表 6 バックアップテープ装置】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
テープドライブ	LT09 Ultrium4500規格又は同等以上の規格のメディアへの書き込み及び読み込みが可能なFCドライブを3台以上搭載していること。	
搭載メディア	20巻以上搭載可能であること。カードリッジマガジン等を搭載し、自動でメディアの切替が行えること。	
電源装置	AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個以上搭載していること。また、活性交換が行えること。	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
その他		
テープ	<ul style="list-style-type: none"> ・LT09 Ultrium45TBテープを合計30本含めること。 ・クリーニングテープを2本含めること。 	

オ L2スイッチ（業務用）（2台）

【表 7 L2スイッチ（業務用）】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
LANポート	<ul style="list-style-type: none"> ・10GBASE-T対応のLANポート（RJ-45）を24ポート以上有していること。 ・10GbE対応のSFP+ポートを2ポート以上有していること。 ・40GbE/100GbE対応のQSFP28ポートを4ポート以上有していること。 	
ファン	<ul style="list-style-type: none"> ・冗長化により3個搭載していること。また、活性交換が行えること。 	
電源装置	<ul style="list-style-type: none"> ・AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個搭載していること。また、活性交換が行えること。 	
その他	10GBASE-SR用SFP+トランシーバを2本搭載すること。	
機能		
L2機能	<ul style="list-style-type: none"> ・IEEE802.1Q に準拠したVLAN設定が可能であること。 ・リンクアグリゲーション（IEEE802.3ad）に対応していること。 	
管理機能	<ul style="list-style-type: none"> ・SNMPエージェント機能を有し、SNMPv1/v2/v3に対応可能であること。 ・Syslog機能を有し、「イ 統合運用管理サーバ」にログを出力可能であること。 	
信頼性	MLAG（Multi-Chassis Link Aggregation）機能もしくはStack機能を有すること。	MLAGもしくはStackを構成するうえで必要なケーブルを含めること

カ L2スイッチ（運用管理用）（1台）

【表 8 L2スイッチ（運用管理用）】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
LANポート	1000BASE-T対応のLANポート（RJ-45）を24ポート以上有していること。	
機能		
L2機能	<ul style="list-style-type: none"> ・IEEE802.1Q に準拠したVLAN設定が可能であること。 	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
	<ul style="list-style-type: none"> ・リンクアグリゲーション（IEEE802.3ad）に対応していること。 	
管理機能	<ul style="list-style-type: none"> ・SNMPエージェント機能を有し、SNMPv1/v2/v3に対応可能であること。 ・Syslog機能を有し、「イ 統合運用管理サーバ」にログを出力可能であること。 	

キ ファイアウォール兼負荷分散装置（2台）

【表 9 ファイアウォール兼負荷分散装置】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
LANポート	<ul style="list-style-type: none"> ・1000BASE-T対応のLANポート（RJ-45）を8ポート以上有していること。 ・10GbE対応のSFP+ポートを2ポート以上有していること。 	
処理性能	<ul style="list-style-type: none"> ・トラフィック処理性能として12Gbps以上処理できること。 ・セッション処理性能として110,000セッション/秒以上処理できること。 	
電源装置	AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個以上搭載していること。	
その他	10GBASE-SR用SFP+トランシーバを2本搭載すること。	
機能		
ロードバランス機能	L7ロードバランシング機能を有していること。	
負荷分散方式	ラウンドロビン（均等負荷分散）および最小接続方式による負荷分散が行えること。	
L2機能	IEEE802.1Q に準拠したVLAN設定が可能であること。	
ロードバランサ性能	<ul style="list-style-type: none"> ・最大スループットとして12Gbps以上の性能を有していること。 ・セッション処理性能として100,000セッション/秒以上の性能を有していること。 	
ファイアウォール機能	接続元と接続先のIPアドレス及びポートに基づき、アクセス制御が行えること。	
アドレス変換	静的アドレス変換に対応していること。	
信頼性	筐体の冗長化機能を有していること。	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

ク L2スイッチ（庁内接続用）（2台）

【表 10 L2スイッチ（庁内接続用）】

区分	諸元	備考
ハードウェア		
LANポート	<ul style="list-style-type: none"> ・1000BASE-T対応のLANポートを24ポート以上有していること。 ・50GbE対応のSFP56ポートを4ポート以上有していること。 	
ファン	冗長化により2個搭載していること。また、活性交換が行えること。	
電源装置	・AC100V 50/60Hzで、冗長化により2個搭載していること。また、活性交換が行えること。	
機能		
L2機能	<ul style="list-style-type: none"> ・IEEE802.1Q に準拠したVLAN設定が可能であること。 ・リンクアグリゲーション（IEEE802.3ad）に対応していること。 	
管理機能	<ul style="list-style-type: none"> ・SNMPエージェント機能を有し、SNMPv1/v2/v3に対応可能であること。 ・Syslog機能を有し、「イ 統合運用管理サーバ」にログを出力可能であること。 	
信頼性	MLAG（Multi-Chassis Link Aggregation）機能もしくはStack機能を有すること。	MLAGもしくはStackを構成するうえで必要なケーブルを含めること

ケ ラック関連機器（一式）

【表 11 ラック関連機器】

区分	諸元	備考
KVMスイッチ	「ア 業務用仮想化基盤サーバ」「イ バックアップサーバ」「ウ 統合運用管理サーバ」と接続できること。	
ラックコンソール	<ul style="list-style-type: none"> ・19インチラックに搭載可能であること。 ・17型以上のディスプレイとキーボード/マウスが一体型であること。 ・本表の「KVMスイッチ」に記載の各サーバのディスプレイを切り替えにより表示・操作できること。 	
その他	本表の「KVMスイッチ」に記載の各サーバ接続に必要なケーブルを付属すること。	

コ ソフトウェア一覧

調達するソフトウェアは、以下（「表12 ソフトウェア一覧」）のとおりとする。受託者は、納入するソフトウェアの名称、型番、販売価格、提供価格、保守費用、リース料率を記した「納入機器等一覧表」を作成し、契約締結後10日以内に本市に提出すること。

**新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書**

なお、納入するソフトウェアの変更（メーカーの機種変更や仕様変更等のためその機器を納入することが不可能な場合）やその他の問題が発生した場合は、遅滞なく本市へ報告し、協議すること。

受託者は、「表12 ソフトウェア一覧」（表13から18含む）及び、「表1 調達機器等一覧」に基づき、必要なライセンスを納入すること。

【表 12 ソフトウェア一覧】

項番	機器名称	数量	備考
(ア)	仮想環境管理ソフトウェア	一式	表13
(イ)	仮想OS①	一式	表14
(ウ)	仮想OS②	一式	表15
(エ)	統合運用管理ソフトウェア①	一式	表16
(オ)	統合運用管理ソフトウェア②	一式	表17
(カ)	バックアップ管理ソフトウェア	一式	表18

(ア) 仮想環境管理ソフトウェア

【表 13 仮想環境管理ソフトウェア】

区分	諸元	備考
利用サーバ等	業務用仮想化基盤サーバ 6台	
指定ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・Nutanix Cloud Infrastructure Pro Software License & Mission Critical Software Support Service ・Nutanix Cloud Manager Starter Software License & Mission Critical Software Support Service ・Custom Technical Account Manager (TAM) 	
ライセンス数	「利用サーバ等」に記載する条件に基づき、必要ライセンス数を導入すること。	
クラスタ	仮想化基盤は、14台以上の物理サーバを統合した「クラスタ」として一元的に動作するものであること。	
可用性	仮想化ハイパーバイザーは、物理サーバ障害発生時に自動的に仮想マシンを再起動するHA機能を有していること。	
管理	CPU、メモリ、ディスクの各リソースの利用傾向と将来予測をグラフ化して表示できること。	

(イ) 仮想OS①

【表 14 仮想OS①】

区分	諸元	備考
利用サーバ等	業務用仮想化基盤サーバ 6台	
指定ソフトウェア	Windows Server 2025 Datacenter	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
ライセンス数	業務用仮想化基盤サーバの総CPUコア数	

(ウ) 仮想OS②

【表 15 仮想OS②】

区分	諸元	備考
利用サーバ等	業務用仮想マシン 9VM	
指定ソフトウェア	Red Hat Enterprise Linux Standard 9	
ライセンス数	「利用サーバ等」に記載する条件に基づき、必要ライセンス数を導入すること。	

(エ) 統合運用管理ソフトウェア①

以下の機能を同一メーカーの製品群で実現可能であること。

【表 16 統合運用管理ソフトウェア①】

区分	諸元	備考
監視対象	業務用仮想化基盤サーバ 6台 バックアップサーバ 2台 ファイアウォール兼負荷分散装置 2台 ネットワークスイッチ 5台 業務用仮想マシン 26VM 運用管理マシン 2VM	
ライセンス数	「監視対象」に記載する条件に基づき、必要ライセンス数を導入すること。 また、10ユーザー以上で利用できるよう、必要ライセンスを導入すること。	
システム監視	<ul style="list-style-type: none"> ・監視対象 60 IPアドレスに対してシステム監視を行えること。 ・監視対象のIPアドレスに対して、ICMPのPing 応答により、死活監視を行う機能を有すること。 ・SNMPによる監視機能を有していること。また、非SNMP装置については、WMI、TELNET及びSSHによる監視機能を有し、監視対象のリソース情報（CPU、メモリ及びディスク使用率）を取得できること。 ・パフォーマンス情報、トラフィック情報をリアルタイム（取得した最新情報を表示）で表示する機能を有すること。 ・Windowsサービス、TCPサービスポート、プロセスの可用性を監視する機能を有すること。 ・SNMPトラップを検知できる機能を有すること。 ・SyslogおよびWindowsイベントログを監視する機能を有すること。 ・Linuxサーバ 5台のログファイルを監視する機能を有すること。 ・アラートを一覧で表示する機能を有すること。また、一覧からアラートのフィルター、ソート、検索が 	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
	<p>可能であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害検知時にメールで障害を通知する機能を有すること。 ・ 障害通知の方法は監視対象や監視項目ごとに設定できること。 ・ 計画メンテナンス時に監視を止める機能を有すること。 ・ 可用性、応答時間、使用率、トラフィック情報、アラート及びイベントのレポートをExcel形式またはPDF形式でエクスポートできる機能を有すること。 ・ 監視情報はブラウザで閲覧でき、UIは日本語に対応していること。 	
ログ収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 20台からイベントログ収集が行えること。 ・ 通信機器等 20台からSyslogでログ収集が行えること。 ・ Windows、Linux及び通信機器からエージェントレスでログを収集できること。 ・ 任意形式のアプリケーションログをローカルまたはリモート環境からインポートすることが可能であること。また、定期的にインポートを行うようスケジュール設定を行うことができること。 ・ 収集したログを定期的にアーカイブ化し、さらに一定期間経過後にZIP形式のファイルに圧縮できること。またZipファイルの保持期間は、継続、1年、6ヵ月、3ヵ月、1週間から選択できること。 ・ 収集したログの中から、任意の監視対象、ログタイプ、ログに含まれるメッセージ、時間などの条件を指定した上で、合致するログを検索することが可能であること。 ・ イベント発生数の多い監視対象やユーザーの一覧表示、ユーザーごとのアクティビティのグラフ表示など、様々なレポートを作成できること。 ・ 収集したログデータはブラウザで閲覧でき、UIは日本語に対応していること。 	
資産管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期共通基盤システムで調達するソフトウェアのライセンス期限、ライセンスキーの管理が行えること。 ・ ソフトウェアライセンスの購入数をもとにライセンスの割り当て状況を登録し管理が行えること。 ・ インシデントや問い合わせの内容及び対応履歴の記録が行えることが望ましい。 ・ 資産情報はブラウザで閲覧でき、UIは日本語に対応していること。 	

(オ) 統合運用管理ソフトウェア②

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

統合運用管理ソフトウェア①と同一メーカーの製品であること。

【表 17 統合運用管理ソフトウェア②】

区分	諸元	備考
監視対象	業務用仮想マシン 14VM 運用管理マシン 2VM	
ライセンス数	「監視対象」に記載する条件に基づき、必要ライセンス数を導入すること。 また、10ユーザー以上で利用できるよう、必要ライセンスを導入すること。	
システム監視	<ul style="list-style-type: none"> ・監視対象 20 IPアドレスに対してシステム監視を行えること。 ・監視対象のIPアドレスに対して、ICMPのPing 応答により、死活監視を行う機能を有すること。 ・SNMPによる監視機能を有していること。また、非SNMP装置については、WMI、TELNET及びSSHによる監視機能を有し、監視対象のリソース情報（CPU、メモリ及びディスク使用率）を取得できること。 ・パフォーマンス情報、トラフィック情報をリアルタイム（取得した最新情報を表示）で表示する機能を有すること。 ・Windowsサービス、TCPサービスポート、プロセスの可用性を監視する機能を有すること。 ・SNMPトラップを検知できる機能を有すること。 ・SyslogおよびWindowsイベントログを監視する機能を有すること。 ・Linuxサーバ 4台のログファイルを監視する機能を有すること。 ・アラートを一覧で表示する機能を有すること。また、一覧からアラートのフィルター、ソート、検索が可能であること。 ・障害検知時にメールで障害を通知する機能を有すること。 ・障害通知の方法は監視対象や監視項目ごとに設定できること。 ・計画メンテナンス時に監視を止める機能を有すること。 ・可用性、応答時間、使用率、トラフィック情報、アラート及びイベントのレポートをExcel形式またはPDF形式でエクスポートできる機能を有すること。 ・監視情報はブラウザで閲覧でき、UIは日本語に対応していること。 	
ログ収集	<ul style="list-style-type: none"> ・Windows Server 20台からイベントログ収集が行えること。 ・Windows、Linux及び通信機器からエージェントレスでログを収集できること。 ・任意形式のアプリケーションログをローカルまたはリモート環境からインポートすることが可能であること。また、定期的にインポートを行うようスケ 	

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

区分	諸元	備考
	<p>ジュール設定を行うことができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集したログを定期的にアーカイブ化し、さらに一定期間経過後にZIP形式のファイルに圧縮できること。またZipファイルの保持期間は、継続、1年、6ヵ月、3ヵ月、1週間から選択できること。 ・収集したログの中から、任意の監視対象、ログタイプ、ログに含まれるメッセージ、時間などの条件を指定した上で、合致するログを検索することが可能であること。 ・イベント発生数の多い監視対象やユーザーの一覧表示、ユーザーごとのアクティビティのグラフ表示など、様々なレポートを作成できること。 ・収集したログデータはブラウザで閲覧でき、UIは日本語に対応していること。 	

(カ) バックアップソフトウェア

【表 18 バックアップソフトウェア】

区分	諸元	備考
バックアップ対象	<p>統合運用管理サーバ 2台 業務用仮想マシン 40VM 運用管理マシン 4VM</p>	
ライセンス数	<p>「バックアップ対象」に記載する条件に基づき、必要ライセンス数を導入すること。</p>	
機能	<ul style="list-style-type: none"> ・「ア 業務用仮想化基盤サーバ」上の仮想サーバをイメージバックアップにより取得でき、「ウ バックアップサーバ」及び「エ バックアップテープ装置」に保存できること。 ・「イ 統合運用管理サーバ」のバックアップを取得でき、「ウ バックアップサーバ」及び「エ バックアップテープ装置」に保存できること。 ・重複排除および圧縮機能により、バックアップデータの容量を削減できる仕組みを有していること。 ・イメージバックアップから仮想サーバを復元できること。 ・イメージバックアップからファイル単位で復元できること。 	

(4) 調達機器等仕様の補足事項

- 本体、その他全ての付属品は、中古品であってはならない。
- 本体、その他全ての付属品は、本市が指定する場所に納入すること。
- 機器などの保守を行うものが自ら一体的に保守が行えるように、同一メーカー

一、同一機種、同一品質であるよう可能な限り配慮すること。

- 本体、その他全ての付属品の設置に伴って必要となる物品（接続部品等）については本書の記載の有無にかかわらず、全て提供すること。
- 導入に際して、梱包材、本市が不要と判断する付属品、マニュアル等を撤去すること。
- 「機器等」は、納品時点での最新ファームウェアがインストールされ、かつ、ハードウェアメーカーにより動作が保証されていること。ただし、最新ファームウェアに重大な欠陥が見つまっている場合はこの限りではない。
- ソフトウェアの種類ごとに、インストール媒体とマニュアルを最低 1 セット用意すること。なお、言語は日本語版を用意すること。
- 「Windows Server CAL」及びウイルス対策ソフトは、本市が用意するため、本調達に含めない。

8. 保守業務の仕様

(1) ハードウェア保守

受託者は、システムが常に安全な機能を保つように、次の要件を含んだ保守作業を実施すること。

なお、保守にあたって必要となる情報は、別紙「次期共通基盤システム非機能要求」を参考にし、詳細については、契約締結後に本市から提示するものとする。

ア 基本要件

(ア) 対象

受託者は、本調達機器を対象として保守を行なうこと。

なお、保守期間は賃貸借期間と同一の期間とし、少なくとも年 1 回予防保守・活性保守を行なうこと。予防保守を行う時期は、本市と調整すること。

(イ) 作業計画・報告

受託者は、緊急的に発生する作業を除き、定期的な保守作業を行う際には、作業概要・対象日時・作業従事予定者・作業工程・影響範囲・対象資産等本市と共有すべき情報を「作業実施計画書（案）」としてまとめ、遅くとも作業実施 10 日前までに「作業実施計画書」の承認を受けること。

なお、緊急時に作業を実施する場合は、電話等で本市担当者へ概要を説明し、許可を得たうえで実施すること。

(ウ) 作業報告

受託者は、保守作業を行った際は、遅くとも作業実施 10 日後以内に「作業実施報告書」を本市に提出すること。

(エ) 技術支援

新潟市次期共通基盤システム
機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書

受託者は、技術的な問題や障害を解決するために必要な技術情報、障害切り分けのノウハウ、作業手順、解決方法や回避方法等の技術支援を提供すること。

イ 障害時の対応

(ア) 連絡体制の共有

受託者は、本市からの障害時連絡を受けられるよう連絡体制を整備し、書面にて本市へ提示し、共有を図ること。また、体制の変更があった場合は、変更後の体制を速やかに本市へ提示すること。なお、本市担当者の連絡先は、契約締結後に提示し、担当者の変更があった場合は、変更後の体制を速やかに提示する。

(イ) 連絡受付時間帯

受託者は、平日の本市窓口開庁時間（午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分まで）の間、本市からの問い合わせを受け付けること。

ただし、本基盤を起因とする障害は、本市の行政事務・市民サービス全体に影響を及ぼすため、緊急時においては連絡受付時間帯以外でも本市が連絡を取れるような体制を確保すること。

(ウ) 状況報告

受託者は、本市から障害発生連絡を受けてから 1 時間以内に、本市担当者へ状況（事象・想定原因・想定影響範囲・復旧見込み時間・対応方法案）を報告し、復旧作業に着手する許可を得ること。やむを得ない事情により、時間が掛かる場合でも、時点で判明している状況を第一報として報告し、本市と協議の上対応のこと。本市担当者は、状況報告を受けた後、本市関係者へ状況報告を行う。

また、復旧作業中は、定期的に本市担当者とは連絡・調整を図り、障害対応の進捗状況及び復旧見込み時間、前回報告時からの変化等を共有し、復旧に臨むこと。

なお、連絡受付時間帯以外で障害が発生した場合は、遅くとも翌開庁日の午前 8 時 30 分までには復旧作業を開始すること。

(エ) 復旧時間

受託者は、部品の修理や手配、交換等の復旧作業全てについて、障害対応開始から 12 時間以内に完了すること。

ただし、本市の許可を得て一時的に代替機器を用いて障害を回避できる場合は、回避できた実時間を除外することができる。

なお、代替機器の調達及びその設定や設置に係る費用は、全て受託者が負担すること。

大規模災害等の理由によりやむを得ない事情がある場合はこの限りではない。

(オ) 派遣技術者の要件

受託者は、復旧作業にあたり、対象機器に精通した技術者、又は、精通した技術者から対応方法の指示を受けた技術者を派遣すること。

また、復旧作業中の派遣回数を制限しないこととし、派遣にかかる費用は別途発生しないこと。

(カ) 是正措置

障害復旧後、同様の障害が発生しないよう是正措置又は予防措置を講じ、本市と協議すること。

(キ) その他

本基盤構築業務受託者による機器等の設定を含めた準備期間についても上記同様の保守対応をすること。

(2) ソフトウェア保守

ア 保守期間

保守は、賃貸借期間に加え、機器等の設定を行う準備期間を含めて対応すること。

イ 修正版プログラム

障害時及び脆弱性発見時などには、本市の求めに応じてソフトウェアに関する調査を行ない、ソフトウェアの不具合が判明した場合には、修正版プログラムと適用手順書の提供を行なうこと。

なお、本市が指定するミドルウェアを除き、導入したソフトウェアに不具合が発見された場合には、本市と協議の上、修正版プログラムの適用を行なうこと。

また、本基盤構築業務受託者及び本基盤運用保守業務受託者による機器等の設定を含めた準備期間についても対応すること。

(3) 技術支援

受託者は、障害発生に関わらず、本市の求めに応じて、「機器等」についての技術支援を遅滞なく行なうこと。

なお、技術支援の遅延等に起因する本基盤構築業務受託者及び本基盤運用保守業務受託者作業の工程遅延、発生する費用負担などの危険負担は受託者が負うものとする。

また、引継を行っていない操作については、本業務の受託者が現地にて操作を行なうこと。

(4) 賃貸借期間中及び満了時のデータ消去及び記憶装置の処分

受託者は、ハードディスク及び磁気媒体などの電磁的記憶媒体について、交換時及び賃貸借終了時には、物理的な方法による破壊を行い、格納されているデータを復元できないように処置すること。また、行った処置について、日時、担当者、処理内容を記録した報告書を提出すること。処置に係る費用は受託者が負担

すること。

なお、作業場所については、必要により撤去時に協議し決定する。

9. 成果物等

(1) 成果物

受託者は、以下の表に示す成果物について、Microsoft Office 製品又は PDF 形式で作成の上、CD-RまたはDVD-Rに格納して納品すること。

なお、以下の表に示す成果物以外の成果物の作成が必要となった場合は、本市と受託者とで協議し、あらかじめ成果物の名称及び内容、納入期日等を決定の上、作成すること。

【表 18 成果物一覧】

No.	名称	内容	納入期日
1	納入予定機器等一覧表	納入予定の「機器等」の名称、型番、販売価格、提供価格、保守費用、リース料率を、一覧表形式で記述した文書。	契約締結後 10 日以内まで。
2	機器等納入証明書	「機器等」について、本市が定める場所へ納入したことを証明する文書。	「機器等」の納入後 10 日以内まで。
3	動作確認証明書	「機器等」の設定作業にあたり、実施した動作確認内容、確認結果を記述した文書。	「機器等」の納入後 10 日以内まで。
4	付帯作業計画書	本書に記載する一連の付帯作業計画を記述した文書。	「機器等」の納入予定日まで
5	付帯作業報告書	本書に記載した一連の付帯作業結果を記述した文書。	全付帯作業完了後 10 日以内まで
6	保守作業計画書	「機器等」の保守作業について、予定される作業体制、作業スケジュール、作業内容等を記述した文書。	作業実施日の10 日前まで。
7	保守作業報告書	「機器等」の保守作業について、実施した作業内容、技術情報等を記述した文書。	作業実施後10日以内
8	事故等報告書	「契約書」に示す、本業務の実施に支障が生じるおそれがある事故が発生した際の、詳細な報告、及び事故後の方針案を記述した文書。	事故発生後 3 日以内
9	データ及び設定情報消去証明書	「機器等」のデータ及び設定情報を消去したことを証明する文書。	「機器等」のデータ消去完了後 10 日以内
10	破棄証明書	「機器等」を物理的に破壊したことを証明する文書。	「機器等」の破壊完了後10日以内

(2) 著作権の取り扱い

「契約書」の記載による。

- (3) 検査方法
「契約書」の記載による。
- (4) 契約不適合責任
「契約書」の記載による。

10. その他特記事項

(1) 法令等の遵守

本業務の履行にあたっては、関係法令及び本市の条例、規則、要綱等を十分理解すること。

なお、本基盤に関連する規則類は、本市のホームページ (<https://www.city.niigata.lg.jp/>) の例規集及び要綱集に掲載のとおりである。

(2) 機密性の厳守

受託者は、本市の最重要情報を取り扱う責任を自覚し、情報セキュリティの三原則（機密性・完全性・可用性）を十分に理解しなければならない。

特に成果物の作成や本市の情報資産を扱う作業、本市庁舎内で作業を行う際は、本市が定めるセキュリティポリシーと同水準以上で作業を行うこと。

また、受託者は、「新潟市個人情報保護に関する法律施行条例」を遵守するとともに、個人の権利及び利益を侵害してはならず、本件業務の履行により知り得た本業務及び関連する業務の内容を、一切第三者に漏らしてはならない。

(3) 現地作業

受託者は、本市庁舎及び「機器等設置場所」に入館する場合、あらかじめ本市の承認を得ること。

- 本市庁舎内は、あらかじめ警備員室に備える「作業従事者名簿」を提出するか、作業の実施ごとに実施 2 日前までに「作業員名簿届」を提出しなければ入館することができない。
- 「機器等設置場所」は、作業の 2 日前までに「入館申請書」を提出しなければ入館できない。ただし、緊急時の場合は、本市へ連絡すること。
- 公共の場であることを弁え、言動や身だしなみに注意し、節度を守ること。
- 入館・退館の手続きや施設利用条件は、あらかじめ本市に確認し、本市の指示に従うこと。
- 受託者は、「機器等設置場所」で作業する場合、受託者の社名入りネームプレートを着用すること。

(4) 疑義の解釈

本業務について疑義を生じた場合は、速やかに本市と受託者とで協議を行うこと。

(5) 業務評価の特記仕様

本業務の履行完了など、契約終了後に受託者の業務内容について、本市は下記の基準により評価し、記録を保存するものとする。

なお、受託者は評価結果について異議を申し立てることはできないものとする。また、評価結果が契約条件に影響を与えることは一切ないものとする。

【表 19 業務評価基準】

評価ランク	評価基準
1	成果物の品質、納入等で仕様を超える成果があった。
2	通常の指示により仕様どおりの成果を得た。
3	仕様書のほかに口頭の指示等により仕様どおりの成果を得た。
4	担当者が相当程度指導するなどして、なんとか仕様レベルの成果を得た。
5	仕様を達成できなかった（契約解除等）。

新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託 契約書（案）

新潟市（以下「甲」という。）と〇〇〇〇株式会社（以下「乙」という。）は、「新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託」について、次のとおり契約（以下「本契約」という。）を締結する。

1 機器等の名称及び数量

「新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託仕様書」（以下「仕様書」という。）のとおり。なお、明細は、別表1「機器等の名称及び数量」とおり。

2 業務仕様

別紙仕様書のとおり。

3 機器等の設置場所

甲の指定する場所

4 履行期間

令和8年12月1日 から 令和13年11月30日 まで（60か月）

5 契約金額

月額金 円（うち消費税及び地方消費税の額 金 円）とする。なお、各年度の支払いについては、別表2「賃借料及び保守料の内訳」とおり。

6 契約保証金

新潟市契約規則第33条及び第34条の規定による。

7 契約条項

別紙「新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託契約書 契約条項」とおり。

本契約を証するため本書2通を作成し、甲乙両者が記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

令和8年 月 日

甲 新潟市中央区学校町通1番町602番地1

新潟市

代表者 新潟市長 中原 八一 印

乙

印

別表 1 機器等の名称及び数量
 別表 2 賃借料及び保守料の内訳

別表 1 機器等の名称及び数量

(税抜)

品名	型番	数量	月額賃借料単価	月額賃借料合計	月額保守料単価	月額保守料合計
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
合計						

別表 2 賃借料及び保守料の内訳

(1) 月額

内容	月額
機器等賃借 (税抜)	円
機器等保守 (税抜)	円
消費税及び地方消費税の額	円
月額計	円

(2) 契約総額の内訳

対象期間	賃借料 年度額(税抜)	保守料 年度額(税抜)	消費税及び 地方消費税 年度額	年度額計
令和8年12月1日～令和9年3月31日	円	円	円	円
令和9年4月1日～令和10年3月31日	円	円	円	円
令和10年4月1日～令和11年3月31日	円	円	円	円
令和11年4月1日～令和12年3月31日	円	円	円	円
令和12年4月1日～令和13年3月31日	円	円	円	円
令和13年4月1日～令和13年11月30日	円	円	円	円
契約総額	円	円	円	円

新潟市次期共通基盤システム機器等賃貸借及び保守業務委託 契約書 契約条項

(基本合意)

- 第1条 甲及び乙は、この契約条項（契約書を含む。以下同じ。）に基づき、仕様書等（別添の仕様書、見本、図面、明細書及びこれらの図書に対する質問回答書をいう。以下同じ。）に従い、日本国の法令及び新潟市の条例・規則等を遵守し、この契約（この契約条項及び仕様書等を内容とする契約をいう。以下同じ。）を履行しなければならない。
- 2 乙は、甲に対し、機器をこの契約の定めにより賃貸し、甲はこれを借り受ける。また、乙は、甲が乙から賃借した機器等が正常な機能を果たす状態を保つように機器等の設置、調整、修理又は部品の交換等所要の保守（以下「保守業務」という。）を請け負うものとする。
- 3 機器等の賃貸借及び保守その他この契約を履行するために必要な一切の手段については、この契約及び仕様書及び甲乙協議の上で作成する機器等保守計画書等の関連資料（以下「仕様書等」という。）のとおりとする。なお、この契約の条項と仕様書等に定める事項が重複、抵触、矛盾する場合、又はこの契約に規定がなく仕様書等に規定がある場合は、仕様書等に定める事項が優先するものとする。
- 4 乙は、この契約の履行に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。この契約が終了し、又は解除された後も同様とする。
- 5 乙は、この契約の履行に関して個人情報を取り扱う場合は、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）を遵守し、個人の権利及び利益を侵害することのないよう個人情報を適正に扱わなければならない。
- 6 この契約条項に定める催告、請求、通知、報告、申出、承諾及び解除は、書面により行わなければならない。
- 7 この契約と他の契約（甲及び乙間の合意を指し、その名称を問わない。）の条項に矛盾があれば、この契約が優先する。
- 8 この契約の履行に関して甲乙間で用いる言語は、日本語とする。
- 9 この契約条項に定める金銭の支払に用いる通貨は、日本円とする。
- 10 この契約の履行に関して甲乙間で用いる計量単位は、仕様書等に特別の定めがある場合を除き、計量法（平成4年法律第51号）の定めるところによるものとする。
- 11 この契約における期間の定めについては、民法（明治29年法律第89号）、商法（明治32年法律第48号）及び政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）の定めるところによるものとする。
- 12 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。
- 13 この契約に係る訴訟については、甲の所在地を管轄する裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所とする。

(賃料の請求及び支払)

第2条 甲は、契約書で定める賃料を乙に支払うものとする。ただし、下記の場合において、甲が乙に支払うべきその月分の賃料は、その月の暦日数に基づく日割計算によって算定した額とする。

- (1) 機器の引渡日が月の途中である場合
- (2) 甲が月の途中で契約の全部又は一部を解除した場合
- (3) 乙の責めに帰すべき事由により、機器を使用できなかった場合

2 乙は、前項の賃料の当月分を翌月以降に、書面をもって甲に請求するものとする。

3 前項の請求は、甲が当月分の給付について行う検査に合格した後でなければすることができない。

4 甲は、前2項の規定による請求を受けたときは、その日から起算して30日以内に賃料を乙に支払わなければならない。

5 乙は、甲の責めに帰すべき事由により、前項に規定する期間内に請求金額を支払わなかったときは、当該請求金額に政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和24年法律第256号）第8条の規定により財務大臣が決定する率を乗じて得た額の遅延利息を請求することができる。

(公租公課)

第3条 機器に係る公租公課は、乙の負担とする。

(契約の保証)

第4条 乙は、この契約締結と同時に、次の各号のいずれかに掲げる保証を付さなければならない。ただし、第4号の場合においては、履行保証保険契約の締結後、速やかにその保険証券を甲に寄託しなければならない。

- (1) 契約保証金の納付
- (2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供
- (3) この契約による債務の不履行により生ずる損害金の支払を保証する銀行又は甲が確実と認める金融機関の保証
- (4) この契約による債務の不履行により生ずる損害を填補する履行保証保険契約の締結

2 前項各号の金員は、契約金額の100分の10以上としなければならない。

3 第1項の規定により、乙が同項第2号又は第3号に掲げるいずれかの保証を付したときは、当該保証は契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第4号に掲げる保証を付したときは契約保証金の納付を免除する。

4 第1項の規定にかかわらず、この契約が新潟市契約規則（昭和59年新潟市規則第24号）第34条第3号、第4号、第6号又は第7号のいずれかに該当するときは、第1項各号に掲げる保証を付すことを免除する。

5 甲は、乙がこの契約の履行をしたときは、速やかに、第1項の規定により納付を受けた

契約保証金又は同項の規定により寄託を受けた有価証券等若しくは金融機関等の保証書を乙に返還しなければならない。

(権利義務の譲渡等の制限)

第5条 乙は、甲の書面による承諾がなければ、この契約によって生じる権利又は義務を第三者に譲渡し、若しくは承継させ、又は担保に供してはならない。

(機器等の譲渡又は転貸の禁止)

第6条 甲は、機器等を第三者に譲渡し、又は転貸してはならない。

(所有機器の表示)

第7条 乙は、機器等に乙の所有に属する旨の表示をしなければならない。

(検査及び引渡し)

第8条 乙は、履行期間の始期までに甲の指定した場所に機器を設置し、甲が使用できる状態に調整（以下、設置及び使用できる状態に調整することを総称して「納入」という。）した後、甲に対して通知する。

2 前項の規定による通知があったときは、甲は、当該通知のあった後、甲の指定する期限までに乙の立会いを求めて検査を行うものとし、乙が立ち会わないときは、立会いを得ずにこれを行うことができる。

3 甲は、納入された機器が前項の検査（第5項の検査をしたときは、同項の検査。以下、これらを「検査」という。）に合格したときは、その引渡しを受けるものとする。

4 甲は、検査に不合格となった機器について、期間を定め、機器の修補、代替機器及び不足分の機器の納入、あるいは代金の減額を乙に求めることができる。この場合においては、第31条の規定を準用する。

5 乙は、前項の機器の修補、代替機器又は不足分の機器の納入をしたときは、直ちにその旨を甲に通知しなければならない。この場合における検査は、第2項の定めるところによるものとし、その後の手続については、前2項の規定を準用する。

6 乙は、検査及び引渡しに要する費用のほか、この契約の履行に要する費用をすべて負担するものとする。

(機器の使用管理)

第9条 甲は、機器の利用説明書による使用方法に従い機器を使用しなければならない。

2 乙は、機器に乙の所有に属する旨の表示をするものとする。

3 乙は、引渡しと同時に履行期限まで機器の使用収益の権利が甲にあることを確約する。

(機器の修繕等)

第10条 機器に故障又は破損その他修繕の必要が生じた場合（通常の使用及び収益によって生じた機器の損耗並びに機器の経年変化を除く。以下同じ。）、甲は、乙に対し、遅滞なくその旨を連絡しなければならない。

2 乙は、前項の規定による連絡を受けた後、機器を甲の使用に供するため、速やかに取替

え、補修その他の措置を講じなければならない。

- 3 前項に要する費用は全て乙の負担とする。ただし、修繕の必要が生じた事由が甲の責めに帰すべきものである場合は甲の負担とする。
- 4 甲は、第1項の場合において、第2項の措置によっても機器を甲の使用に供することができないときは、直ちにこの契約を解除することができる。

(履行遅滞の場合における違約金等)

- 第11条 乙の責に帰すべき事由により、履行期間の始期までに機器を引渡すことができないときは、甲は、乙に対し、違約金の支払いを請求することができる。
- 2 前項の違約金の額は、特に約定がある場合を除き、甲の指定する日の翌日を起算日として検査に合格する日までの日数（検査に要した日数を除く。以下「遅延日数」という。）に応じ、遅延日数1日につき契約金額の1,000分の1に相当する額とする。ただし、履行期間の始期までに既にこの契約に基づく機器の一部の引渡しに係る部分に相当する賃料の額を契約金額から控除した額を契約金額として計算した額とする。
 - 3 第1項の違約金は、賃料の支払時に控除し、又は契約保証金が納付されているときは、これをもって違約金に充てることができる。この場合において、なお当該違約金の額に満たないときは、当該額に満つるまでの額の支払を請求するものとする。

(機器等の維持管理及び保守等)

- 第12条 乙は、仕様書に定める保守業務を定期又は随時に行なわなければならない。
- 2 保守業務に関する費用において、次の各号に掲げる費用については、甲の負担とする。
 - (1) 甲の申出により仕様書に定める保守業務の範囲を超えて行った保守の費用
 - (2) 甲の故意又は過失により生じた機器等の調整、修理又は部品の交換等に要した費用
 - (3) 塩害、ガス害、地震、その他天変地異又は異常電圧等の外部要因に起因する故障及び損傷等による修理又は部品の交換に要した費用
 - 3 甲は、機器等の据付場所について温度、湿度その他必要な環境を保持するとともに善良な管理者の注意をもって機器等を維持管理しなければならない。

(資料等の提供、管理及び返還)

- 第13条 乙は、甲が所有する本業務の実施に必要な資料及び機器等（以下「原始資料等」という。）が必要なときは、甲に提供を要請することができる。
- 2 甲は、乙から前項の要請があり、その必要性を認め、かつ、それが可能なときは、乙に使用上の条件を明示した上で、原始資料等を無償で貸与又は開示等を行う。
 - 3 乙は、甲から原始資料等の貸与を受けたときは、原始資料等の名称及び貸与を受けた日を記録した資料を甲に提出しなければならない。
 - 4 乙は、甲から貸与を受けた原始資料等を甲の事前の承諾なしに複写又は複製してはならない。
 - 5 乙は、甲から貸与を受けた原始資料等の使用を完了したとき、又はこの契約が解除され

たときは、原始資料等を速やかに甲に返還し、又は甲の指示に従い破棄しなければならない。

(主任担当者の指定及び通知)

第14条 甲乙は、本業務の実施に関し、相手方と連絡及び調整を行う一元的な窓口となる主任担当者をそれぞれ定め、書面により相手方に通知しなければならない。なお、主任担当者を変更したときも同様とする。

(直接対話の原則禁止)

第15条 甲乙は、本業務の実施に関し、相手方と対話する必要がある場合は、原則として、主任担当者を通じて行わなければならない。

(指揮命令)

第16条 乙は、本業務の実施に係わる乙の作業従事者及び再委託先の作業従事者に対する指示、労務管理、安全衛生等に関する一切の指揮命令を行わなければならない。

2 乙の保守業務の作業場所が甲の施設内になる場合は、乙の作業従事者及び再委託先の作業従事者に対する服務規律、勤務規則等に関して、甲乙協議の上で決定する。

(事故等の報告)

第17条 乙は、この契約の履行に支障が生じるおそれがある事故の発生を知ったときは、その事故発生の帰責の如何に関わらず、直ちにその旨を甲に報告し、甲の指示のもと速やかに応急措置を加えた後、遅滞なく、詳細な報告及び今後の方針案を書面により甲に提出しなければならない。

(作業状況の報告等)

第18条 乙は、甲から事前の指示があるときは、本業務の進捗及び課題等の作業状況について、甲が求める時期及び内容に基づき、書面により甲に報告しなければならない。

2 乙は、甲から事前の指示があるときは、打ち合せ会議を開催しなければならない。

(甲の検査監督権)

第19条 甲は、乙のこの契約の履行に関し、必要があると認めるときは、乙の作業場所を实地調査し、本業務の実施に係る必要な指示を行うことができる。

2 乙は、甲から前項の検査実施要求及び作業の実施に係る指示がある場合は、それらの要求及び指示に従わなければならない。なお、实地調査の対象事項及び方法の詳細については甲乙協議の上定める。

(成果物の納入)

第20条 乙は、仕様書等又は甲乙協議の上で書面により定めた、乙が甲に納入すべきこの契約の目的物（以下「成果物」という。）を納入期日までに甲の指定した場所に納入しなければならない。

(第三者の権利の使用)

第21条 乙は、全ての成果物が第三者の著作権、特許権その他の権利を侵害しないよう細

心の注意を払わなくてはならない。

2 乙は、本業務の結果に関し、乙の責に帰すべき事由により第三者から著作権又は工業所有権の侵害の申し立てが甲になされた場合、甲が次の各号の全ての対応をとることを条件として、甲に代わってこれを解決するものとし、解決に要した費用を負担する。

- (1) 甲が申し立てを受けた日から14日以内に乙に事実及び内容を通知すること。
- (2) 申し立てに関する調査、解決について乙に全面的に協力すること。
- (3) 解決についての決定権限を乙に与えること。

(情報セキュリティポリシーの遵守)

第22条 乙は、本業務の実施に関し、新潟市情報セキュリティポリシーを遵守するとともに、別記「情報セキュリティに関する要求事項」を遵守しなければならない。

(個人情報の保護)

第23条 乙は、本業務の実施に関し、個人情報を取り扱う場合は、その保護の重要性を認識の上、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守し、個人の権利及び利益を侵害してはならない。

(秘密の保持)

第24条 甲乙は、この契約の履行上知り得た相手方の秘密情報（甲乙が相手方に開示する一切の情報であって、公に入手できない情報をいう。）を第三者に開示又は漏洩してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合はこの限りではない。

- (1) 開示を受けた際に、被開示者が既に所有していたもの。
- (2) 開示を受けた際に、既に公知であったもの。
- (3) 開示を受けた後に、被開示者の責によらずに公知となったもの。
- (4) 被開示者が、この契約の相手方又は第三者から守秘義務を伴わずに適法に取得したものの。
- (5) 被開示者が、開示を受けた情報によらずに独自に開発したものの。
- (6) 法令又は裁判所若しくは行政機関からの命令により開示することを義務付けられたものの。

2 乙は、本業務を実施する乙の作業従事者及び再委託先の作業従事者に対し、前項の義務を遵守させるための秘密保持契約を締結するなど必要な処置を講じなければならない。

(情報の目的外使用の禁止)

第25条 乙は、前条第1項の秘密情報であるかを問わず、この契約の履行上知り得た情報を甲の事前の承諾なしにこの契約の目的外に使用してはならない。

(報告書の提出)

第26条 乙は、第13条第1項の保守業務を実施したときは、速やかに保守業務の成果に関する報告書（以下「報告書」という。）を甲に提出しなければならない。

(履行届書の提出)

第27条 乙は、前月分の保守業務に関し、この契約の履行にかかる届書（以下「履行届書」という。）を毎月、甲に提出しなければならない。

(検査)

第28条 甲は、前条の履行届書を受領したときは、その日から5日以内に保守業務の成果について検査を実施し、乙に検査結果を通知しなければならない。

2 乙は、保守業務の成果が前項の検査に合格しなかったときは、甲の指定する期間内にその指示に従いこれを補正し、再度、甲の検査を受けなければならない。この場合においては前条及び前項の規定を準用する。

3 検査に要する費用は甲の負担とし、前項の補正に要する費用は乙の負担とする。

(機器の引取り等)

第29条 乙は、この契約の賃貸借期間が満了し、又はこの契約が解除された場合は、機器等を速やかに引き取らなければならない。

2 甲は、前項の引き取りに際しては、機器等に取り付けた他の機械器具を取り外す等、機器等を原状に回復しなければならない。

(契約不適合責任)

第30条 引き渡された機器が種類、品質又は数量に関してこの契約の内容に適合しないものであるとき（以下「契約不適合」という。）は、甲は、乙に対し、期間を指定して、当該機器の修補、代替物の納入若しくは不足分の納入（以下、これらを「追完」という。）又は契約金額の減額を求めることができる。

2 乙が前項の規定による追完に応じないときは、甲は、乙の負担により第三者に追完させ、又はこの契約を解除することができる。

3 前2項の請求は、契約不適合が甲の責めに帰すべき事由によるものであるときは、することができない。

4 甲は、契約不適合を知った時から1年以内にその旨を乙に通知しないときは、第1項及び第2項の請求をすることができない。ただし、乙が納入の時に契約不適合を知り、又は重大な過失によって知らなかったときは、この限りでない。

5 第1項及び第2項の請求について、民法第562条第1項ただし書は適用しないものとする。

6 第1項及び第2項の請求は、甲の乙に対する損害賠償の請求を妨げるものではない。

(立入権)

第31条 乙は、その代理人、支配人その他の使用人を機器の納入、調整修理等のために機器の設置場所に立ち入らせることができる。

(他の機械器具の取付け及び機器の移転)

第32条 甲は、機器に他の機械器具を取付け、又は設置場所を変更するときは、あらかじめ

め乙の承諾を得るものとし、これに要する費用は、甲の負担とする。

- 2 乙は、前項の他の機械器具の取付けが機器の保守修理の費用を増大させ、所定の保守修理ができないとき、又は機器の正常円滑な操作若しくは機器の機能に支障を与えるものと判断したときは、これを承諾しないことができる。

(損害保険)

第33条 乙は、履行期間中の機器について、乙の名義で乙を被保険者とする乙所定の機器に対する損害保険を付保するものとし、その費用は乙の負担とする。

- 2 保険事故が発生したときは、甲は直ちにその旨を乙に通知するとともに、保険金受領に関し、必要な一切の書類を乙に交付する。
- 3 乙は、前項の保険金を次の用途に使用するものとする。
 - (1) 機器を完全な状態に復元又は修理すること。
 - (2) 機器と同様な状態又は性能の同等物件と取り替えること。

(契約の変更)

第34条 甲は、必要と認めるときは、仕様書等の変更の内容を乙に通知して、仕様書等の内容を変更し、又は契約の履行を中止させることができる。

- 2 前項の要求事項の変更において、契約金額、履行期間その他の契約内容を変更する必要があるときは、甲乙協議の上、文書をもって定めるものとする。

(予算の減額又は削除に伴う解除等)

第35条 この契約は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第234条の3の規定による長期継続契約であるため、この契約締結日の属する年度の翌年度以降において、甲の歳入歳出予算の当該金額について減額又は削除があった場合は、甲は、この契約を変更又は解除することができる。

- 2 甲は、前項の場合は、この契約を変更又は解除しようとする2ヶ月前までに、乙に通知しなければならない。
- 3 第1項の規定によりこの契約の変更又は解除しようとする場合における必要な事項については、甲乙協議の上で決定する。

(履行期限の延長)

第36条 乙は、災害その他の乙の責めに帰することができない事由により甲の指定する期日までに、甲に対し第9条に規定する検査及び引渡しが完了できない場合は、速やかにその事由を明記した書面により、履行期限の延長を申し出なければならない。

- 2 甲は、乙の責めに帰すべき事由により履行期限までに履行することができないときは、履行遅延の事由、履行可能な期限その他必要な事項を明記した書面の提出を求めることができる。
- 3 前2項に規定する場合において、甲は、その事実を審査し、やむを得ないと認めるときは、甲乙協議の上で履行期限を延長することができる。

(一般的損害)

第37条 この契約の履行に伴い生じた損害については、乙がその費用を負担する。ただし、その損害の発生が甲の責めに帰すべき事由による場合はこの限りでない。

- 2 天災、火災、盗難その他両者の責めに帰すことのできない事由により機器が滅失、損傷した場合及び損害が生じた場合の費用の負担については、甲乙協議の上詳細を決定する。

(第三者に及ぼした損害)

第38条 この契約の履行に伴い第三者に損害を及ぼしたときは、乙は甲に速やかに報告するものとし、乙がその損害を賠償しなければならない。ただし、その損害のうち甲の責めに帰すべき事由により生じたものについては、甲が負担する。

- 2 前項の規定、又はその他の事項について第三者との間に紛争が生じた場合は、甲乙協力してその処理、解決にあたるものとする。

(甲の解除権)

第39条 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当する場合は、相当の期間を定めて催告をし、その期間内に履行がないときは、この契約を解除することができる。

- (1) 履行期限までにこの契約を履行しないとき又は履行の見込みがないと認められるとき。
 - (2) 正当な事由がないのに定められた期日までにこの契約の履行に着手しないとき。
 - (3) 乙又はその代理人、支配人その他の使用人が甲の職員の監督又は検査に際してその職務の執行又は指示を拒み、妨げ、又は忌避したとき。
- 2 甲は、乙が次の各号のいずれかに該当する場合は、前項の催告をすることなく、直ちにこの契約を解除することができる。
- (1) この契約の締結又は履行について、不正があったとき。
 - (2) 一般競争入札又は指名競争入札に参加する者に必要な資格その他のこの契約の相手方として必要な資格を失ったとき。
 - (3) 自己振出の手形又は小切手が不渡処分を受ける等の支払停止状態となったとき。
 - (4) 差押え、仮差押え、仮処分若しくは競売の申立てがあったとき、又は租税滞納処分を受けたとき。
 - (5) 破産手続開始、会社更生手続開始若しくは民事再生手続開始の申立てがあったとき、又は清算に入ったとき。
 - (6) 解散又は営業の全部若しくは重要な一部を第三者に譲渡しようとしたとき。
 - (7) 下請代金支払遅延等防止法（昭和31年法律第120号）第6条に基づき、中小企業庁長官が公正取引委員会に対して適当な措置を採るべき旨乙に対して請求したとき、又は同法第7条に基づき、公正取引委員会が乙に対して勧告したとき。
 - (8) 前各号に掲げる場合のほか、乙が、監督官庁から営業の許可の取消し、停止等の処分を受け、又は乙の事業に関し、監督官庁から、指導、勧告、命令その他の行政指導を受

けたとき。

(9) 前各号に掲げる場合のほか、この契約条項の一つにでも違反したとき。

3 甲は、前2項の規定によるほか、必要があるときは、この契約を解除することができる。

4 乙は、第2項各号のいずれかに該当したときは、速やかに甲に報告しなければならない。

5 乙は、第1項及び第2項の規定によるこの契約の解除により損害が生じた場合であっても、甲に損害賠償の請求をすることができない。

(談合その他不正行為による解除)

第40条 甲は、乙がこの契約に関し次の各号のいずれかに該当する場合は、催告をすることなく、直ちにこの契約を解除することができる。

(1) 公正取引委員会が、乙に違反行為があったとして私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第49条に規定する排除措置命令、独占禁止法第62条第1項に規定する納付命令が確定したとき（独占禁止法第77条の規定により当該処分取消しの訴えが提起された場合を除く。）。

(2) 乙が独占禁止法第77条の規定により前号の処分取消しの訴えを提起し、当該訴えについて棄却又は却下の判決が確定したとき。

(3) 乙（乙が法人の場合にあつては、その役員又は使用人）について刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は同法第198条の規定による刑が確定したとき。

2 乙は、前項の規定による契約の解除により損害が生じた場合であっても、甲に損害賠償の請求をすることができない。

(反社会的勢力の排除)

第41条 乙は、甲に対し、次の各号の事項を確約する。

(1) 自らが、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、政治活動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団、その他これらに準ずる者（以下総称して「反社会的勢力」という。）ではないこと。

(2) 反社会的勢力と次の関係を有していないこと。

ア 自ら若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を与える目的をもって反社会的勢力を利用していると認められる関係

イ 反社会的勢力に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなど反社会的勢力の維持、運営に協力し、又は関与している関係

ウ 反社会的勢力が経営を支配していると認められる関係

エ 反社会的勢力が経営に実質的に関与していると認められる関係

(3) 自らの役員（取締役、執行役、執行役員、監査役、会計参与、理事、監事、相談役、会長その他名称を問わず、経営に実質的に関与している者をいう。）が反社会的勢力では

ないこと、及び反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有していないこと。

(4) 反社会的勢力に自己の名義を利用させ、この契約を締結するものでないこと。

(5) 自ら又は第三者を利用してこの契約に関して次の行為をしないこと。

ア 暴力的な要求行為

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為

ウ 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為

エ 風説を流布し、偽計又は威力を用いて相手方の業務を妨害し、又は信用を毀損する行為

オ この契約に係る資材又は原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手方が反社会的勢力に該当することを知りながら、その相手方と契約を締結したと認められる行為

カ この契約に関して、反社会的勢力を資材又は原材料の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（オに該当する場合を除く。）であつて、甲から当該契約の解除を求められたにもかかわらず、これに従わない行為

キ その他アからカに準ずる行為

2 乙について、次の各号のいずれかに該当した場合には、甲は、何らの催告を要せずして、この契約を解除することができる。

(1) 前項第1号から第3号の確約に反する表明をしたことが判明した場合

(2) 前項第4号の確約に反し契約をしたことが判明した場合

(3) 前項第5号の確約に反した行為をした場合

3 前項の規定によりこの契約が解除された場合には、乙は、甲に対し、甲の被った損害を賠償するものとする。

4 乙は、第2項の規定による契約の解除により損害が生じた場合であっても、甲に損害賠償の請求をすることができない。

(解除に伴う措置)

第42条 乙は、甲が第40条第1項若しくは第2項又は第41条の規定により契約を解除した場合、機器の引渡しの前後にかかわらず、契約金額の10分の1に相当する額を違約金として甲の指定する期限までに支払わなければならない。

2 第4条第1項の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、甲は、当該契約保証金又は担保をもって違約金に充当することができる。

3 第1項の規定は、甲に生じた損害の額が同項の違約金の額を超える場合において、その超える分につき甲が乙に請求することを妨げるものではない。

(賠償額の予定)

第43条 乙は、この契約に関して第41条第1項のいずれかに該当するときは、機器の引渡しの前後及び甲が契約を解除するか否かにかかわらず、契約金額の10分の2に相当す

る額の賠償金を支払わなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、賠償金の支払を免除する。なお、この契約が終了した後も同様とする。

- (1) 第41条第1項第1号及び第2号に掲げる場合において、処分の対象となる行為が、独占禁止法第2条第9項に基づく不公正な取引方法（昭和57年6月18日公正取引委員会告示第15号）第6項に規定する不当廉売に該当する場合その他甲が特に認めるとき。
- (2) 第41条第1項第3号に掲げる場合において、刑法第198条の規定による刑が確定したとき。

2 前項の規定は、甲に生じた損害の額が同項の賠償金の額を超える場合において、その超える分につき甲が乙に請求することを妨げるものではない。

3 前2項の場合において、乙が共同企業体、コンソーシアム等であり、既に解散されているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に賠償金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、共同連帯して前2項の額を甲に支払わなければならない。

(乙の解除権)

第44条 乙は、甲の責めに帰すべき事由又は災害その他のやむを得ない事由により契約の履行をすることができなくなったときは、甲にこの契約の変更若しくは解除又は履行の中止の申出をすることができる。

2 甲は、前項の規定による申出があったときは、契約を変更し、若しくは解除し、又は契約の履行を中止することができる。

3 乙は、甲の責めに帰すべき事由による契約の解除によって損害が生じたときは、甲に損害賠償の請求をすることができる。

(機器の撤去)

第45条 乙は契約期間が満了し、又はこの契約が解除されたときは、速やかに機器を撤去しなければならない。

2 機器の撤去に要する費用については、乙の負担とする。

(危険負担)

第46条 機器の引渡し前に生じた機器の滅失、損傷等については、乙が危険を負担する。

2 機器の引渡し前に生じた災害その他の甲乙いずれの責めにも帰することができない事由によって機器が滅失したときは、甲は、この契約を解除することができる。この場合において、甲は、代金の支払を拒むことができる。

(運搬責任)

第47条 この契約の履行に関し、原始資料等、機器等及び納入すべき成果物の運搬は、乙の責任で行うものとする。

(費用の負担)

第48条 この契約の締結に要する一切の費用は、乙の負担とする。

(乙の責務)

第49条 乙は、甲に対して機器の利用技術を指導するものとし、甲が目的とする対象業務が合理的・効果的に処理され、甲の業績向上が図られるよう支援に努めなければならない。

(個人情報の保護)

第50条 乙は、この契約による業務を処理するための個人情報の取扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を守らなければならない。

(反社会的勢力からの不当介入等に対する措置)

第51条 乙は、この契約の履行に当たり暴力団又は暴力団員から不当な介入（契約の適正な履行を妨げることをいう。）又は不当な要求（事実関係及び社会通念に照らして合理的な事由が認められない不当又は違法な要求をいう。）（以下これらを「不当介入等」という。）を受けたときは、直ちに甲に報告するとともに警察に届け出なければならない。

2 甲は、乙が不当介入等を受けたことによりこの契約の履行について遅延が発生するおそれがあると認めるときは、甲乙協議の上、履行期限の延長その他の措置をとるものとする。

(疑義の決定)

第52条 この契約に関し疑義が生じたとき又はこの契約に定めのない事項については、甲乙協議の上決定する。

(長期継続契約における契約の変更又は解除)

第53条 甲は、契約期間中であっても、この契約を締結した翌年度以降において、この契約に係る歳出予算の減額又は削除があった場合は、この契約を変更又は解除することができる。

2 乙が前項の規定による契約の変更又は解除により損害を受けた場合の費用の負担については、甲乙協議の上、決定するものとする。

情報セキュリティに関する要求事項

(目的)

第1条 情報セキュリティに関する要求事項（以下「本要求事項」という）は、甲の情報セキュリティ対策を徹底するために、新潟市情報セキュリティポリシーに基づき、乙が遵守すべき行為及び判断等の基準を規定する。

(用語の定義)

第2条 本要求事項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号のとおり新潟市情報セキュリティポリシーに定めるところによる。

(1) 情報資産

次の各号を情報資産という。

ア 情報ネットワークと情報システムの開発と運用に係る全ての情報及び情報ネットワークと情報システムで取り扱う全ての情報（以下「情報等」という。）

イ アの情報等が記録された紙等の有体物及び電磁的記録媒体（以下「媒体等」という。）

ウ 情報ネットワーク及び情報システム（以下「情報システム等」という。）

(2) コンピュータウイルス

第三者のコンピュータのプログラム又はデータに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムのことであり、自己伝染機能、潜伏機能、発病機能のいずれか一つ以上を有するものをいう。

(3) 一般管理区域

施設内において職員が執務を行う区域を指し、市民等の来庁者が使用する区域は含まない。

(4) 情報セキュリティ管理区域

庁内ネットワークの基幹機器及び情報システムのサーバ等を設置し、当該機器及びサーバ等に関する重要な情報資産の管理及び運用を行うため、情報セキュリティ上、特に保護管理する区域を指す。

(情報資産の適正管理)

第3条 乙は、甲から情報資産の提供等を受けた場合、その情報資産を適正に管理しなければならない。

(情報資産の適正使用)

第4条 乙は、甲から情報資産の提供等を受けた場合、その情報資産について、業務の範囲を超えて使用することがないよう、適正に使用しなければならない。

(情報資産の適正保管)

第5条 乙は、甲から情報資産の提供等を受けた場合、その情報資産について、不正なアクセスや改ざん等が行われないように適正に保管しなければならない。

(情報資産の持ち出し・配布)

第6条 乙は、甲から情報資産の提供等を受けた場合、甲が承諾した場合を除き、その情報資産を、提供等を受けた部署以外に提供してはならない。

2 乙は、甲から提供等を受けた情報資産を搬送する場合、不正なアクセスや改ざん等から保護すると同時に、紛失等が発生しないよう十分に注意して取り扱わなければならない。

3 乙は、甲から提供等を受けた情報資産のうち、特に重要な情報資産を搬送する場合、暗号化等の措置をとるものとし、暗号化に用いた暗号鍵は厳格な管理を行わなければならない。

4 乙は、甲から提供等を受けた情報資産を甲の庁舎外（出先機関を含む新潟市庁舎の外部のことをいう。以下同じ）へ持ち出す必要がある場合、事前に甲の許可を受けなければならない。この場合、日時及び持ち出し先を明確にしなければならない。

(情報資産の持ち込み)

第7条 乙は、業務上必要としない情報資産を甲の庁舎内（出先機関を含む新潟市庁舎の内部のことをいう。以下同じ）へ持ち込んで서는ならない。

2 乙は、情報資産を甲の庁舎内へ持ち込む場合は、事前に甲の許可を得なければならない。また、その際には、持ち込み日時及び責任者等を明確にしなければならない。

(情報資産の廃棄)

第8条 乙は、第2条第1項第1号イに掲げる情報資産の廃棄、賃貸借期間満了時の返却及び故障時の交換（以下「廃棄等」という）をする場合、事前に甲の許可を受けなければならない。

2 前項の廃棄等の方法は、総行情第77号「情報システム機器の廃棄時におけるセキュリティの確保について」（令和2年5月22日総務省自治行政局地域情報政策室長）の例により情報を復元できないように措置を講じなければならない。

3 乙は、前項の措置を講じる場合は、廃棄等の日時、作業事業者名、作業責任者名、処分方法及びシリアルナンバー等処分機器が特定できる情報等を明確にし、その廃棄等の内容を証するものを作成し、甲に提出しなければならない。

(機器の管理)

第9条 乙は、システムの開発や運用に必要となるコンピュータ等を甲の庁舎内に持ち込む場合は、コンピュータ等に管理番号シールを貼り付ける等により所掌を明らかにしなければならない。

2 乙は、コンピュータ等を甲の庁内ネットワークに接続する際には、事前に甲の許可を受けなければならない。

3 乙は、乙の作業従事者が所有するコンピュータ等を、甲の庁内ネットワークに接続してはならない。

(機器の持ち出し)

第10条 乙は、一旦甲の庁舎内に持ち込んだコンピュータ等を、甲の庁舎外に持ち出す場合は、事前に甲の許可を得なければならない。

2 乙は、許可を受けてコンピュータ等を甲の庁舎外に持ち出す場合、業務に必要な情報以外を持ち出してはならない。

3 乙は、委託業務の終了等に伴い、甲の庁舎内に持ち込んだコンピュータ等を撤収する場合についても、第8条と同様とする。

(機器の持ち込み)

第11条 乙は、業務上必要としないコンピュータ及び周辺機器（以下「コンピュータ等」という）を甲の庁舎内へ持ち込んで서는ならない。

2 乙は、コンピュータ等を甲の庁舎内へ持ち込む場合は、事前に甲の許可を得なければならない。また、その際には、持ち込み日時及び責任者等を明確にしなければならない。

(機器の廃棄)

第12条 乙は、甲の庁舎内に持ち込んだコンピュータ等を廃棄する場合についても、第8条と同様とする。

(コンピュータウイルス対策)

第13条 乙は、コンピュータウイルスの感染を防止するため、必要に応じて対策ソフトによるウイルス検査を行わなければならない。このとき、電磁的記録媒体を使用してファイルを持ち出し及び持ち込む際には、特に注意してウイルス検査を行わなければならない。

(開発環境)

第14条 乙は、情報システムの開発又はテストにおいて開発環境と本番環境を切り分けるものとする。ただし、開発作業による本番環境への影響が少ない場合で、甲が特に指示した場合は、この限りではない。

(試験データの取扱)

第15条 乙は、システム開発又はテストにおいて本番データを使用する際には、事前に甲の許可を得なければならない。

(一般管理区域及び情報セキュリティ管理区域における入退室)

第16条 乙は、一般管理区域及び情報セキュリティ管理区域（以下「一般管理区域等」という）に入室する際及び入室中には、名札を着用しなければならない。

2 乙は、特別な理由がない限り、一般管理区域等を擁する施設の最終退出者となつてはならない。

(搬入出物の管理)

第17条 乙は、一般管理区域等における、不審な物品等の持ち込み、機器故障又は災害発生を助長する物品等の持ち込みや、機器・情報の不正な持ち出しを行ってはならない。

2 乙は、情報セキュリティ管理区域における搬入出物を、業務に必要なものに限定しなけ

ればならない。

(作業体制)

第18条 乙は、甲に作業従事者名簿を提出し、責任者及び作業従事者を明確にしなければならない。

(報告書・記録等の提出)

第19条 乙は、委託業務に関する作業、情報セキュリティ対策の実施状況及び特定個人情報に係る安全管理措置の遵守状況について、甲に対し報告書を提出しなければならない。

2 乙は、甲の庁内ネットワーク及び甲が所掌する情報システムを使用してこの契約を履行する場合、甲に対し情報システムの使用記録及び障害記録を提出しなければならない。

(情報資産の授受)

第20条 乙は、甲と情報資産の授受を行う場合は、甲が指定する管理保護策を実施しなければならない。

(教育・訓練への参加の義務)

第21条 乙は、甲が指示する情報セキュリティ教育及び訓練に参加し、甲が定める情報セキュリティポリシー等を理解し、情報セキュリティ対策を維持・向上させなければならない。

(検査・指導)

第22条 乙は、甲が乙の情報セキュリティ対策の実施状況及び特定個人情報に係る安全管理措置の遵守状況を検査・指導する場合は、検査に協力するとともに指導に従わなければならない。

2 乙は、甲の庁舎外で委託業務を行う場合は、甲の情報セキュリティ水準と同等以上の水準を確保するとともに、その管理体制を甲に対し明確にしなければならない。

(事故報告)

第23条 乙は、この契約に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれのあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従わなければならない。

(指示)

第24条 甲は、乙がこの契約による業務を処理するために実施している情報セキュリティ対策について、その内容が不相当と認められるときは、乙に対して必要な指示を行うことができる。

(契約解除及び損害賠償)

第25条 甲は、乙が本要求事項の内容に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。

(疑義等の決定)

第26条 本要求事項について疑義が生じたとき又は本要求事項に定めのない事項については、甲乙協議の上で決定する。

別記

個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

第1条 乙は、この契約を履行するに当たり、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報（個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）第2条第1項に規定されるものをいう。以下同じ。）の保護の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法令及び新潟市保有個人情報の適切な管理のための措置に関する要領（令和6年6月26日制定）を遵守し、個人情報を適正に取り扱わなければならない。

(秘密の保持)

第2条 乙は、この契約を履行するに当たって知り得た個人情報を他に漏らしてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

(収集の制限)

第3条 乙は、この契約の履行に当たって個人情報を収集するときは、この契約の履行に必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(適正管理)

第4条 乙は、この契約を履行するに当たって知り得た個人情報の漏えい、滅失及び毀損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 乙は、この契約を履行するに当たり、個人情報の管理責任者を選任し、事務従事者の管理体制等必要事項について、甲へ書面で報告しなければならない。

3 乙は、この個人情報取扱特記事項の遵守状況について、甲へ定期的に報告しなければならない。

(利用及び提供の制限)

第5条 乙は、甲の指示がある場合を除き、この契約を履行するに当たって知り得た個人情報を契約の目的以外の目的に利用し、又は甲の承諾なしに第三者に提供してはならない。

(複写又は複製の禁止)

第6条 乙は、この契約の履行に当たって甲から引き渡された個人情報が記録された資料等を甲の承諾なしに複写し、又は複製してはならない。

(資料等の返還等)

第7条 乙は、この契約の履行に当たって甲から引き渡され、又は乙自らが収集し、若しくは作成した個人情報が記録された資料等は、この契約終了後直ちに甲に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、甲が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

(従事者への周知)

第8条 乙は、この契約の履行に従事している者に対して、在職中及び退職後において、その業務に関して知ることのできた個人情報を他に漏らしてはならないこと、又は契約の目的以外の目的に使用してはならないことなど、個人情報の保護に関し必要な事項を周知す

るものとする。

(実地調査)

第9条 甲は、必要があると認めるときは、乙がこの契約の履行に当たり、取り扱っている個人情報の状況について随時実地に調査することができる。

(事故報告)

第10条 乙は、この契約に違反する事態が生じ、又は生ずるおそれのあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。

(指示)

第11条 甲は、乙がこの契約の履行に当たって取り扱っている個人情報について、その取扱いが不相当と認められるときは、乙に対して必要な指示を行うことができる。

(契約解除及び損害賠償)

第12条 甲は、乙がこの個人情報取扱特記事項に違反していると認めるときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。